

培地固化緑化基盤を用いて花壇苗を屋上緑化に利用する技術の開発

農林センター 園芸部

要 旨

京都府地球温暖化対策条例に基づき、屋上緑化の推進が取り組まれている。

屋上緑化には環境ストレスに強いセダム類など限られた植物を利用することが多く、単調になりやすい。屋上に憩いの場を提供するという観点から色彩豊かな屋上庭園をめざし、培地固化緑化基盤(以下、固化基盤)を用いて花壇苗を利用する方法を提案する。

成果の概要

固化基盤は強風にも培地が飛散せず、並べるだけで作業が容易で短時間で設置が図れる利点がある。固化基盤に花壇苗を植えたときの荷重は50～55kg/m²、地震力算出用の積載荷重(60kg/m²)以下となるため実用性が高い。

この固化基盤を用いて花壇苗を屋上で栽培すると、次に示す植物では、通常の培地(無固化)で栽培するのと同様の生育を示し、固化基盤に花壇苗を植えた屋上花壇が可能である。(表1)

夏生育型植物：サルビア、ジニア、ゼラニウム、
ニチニチソウ、バーベナ、
ペゴニア・センパフローレンス、
ペチュニア、マリーゴールド

冬生育型植物：キンギョソウ、クリサンセマム、
ダイアンサス、デージー、パンジー、
ビオラ



図「花空間けいはんな」(京都府精華町)事務棟屋上における春夏期の屋上花壇

固化基盤に花壇苗を植える時は、定植後に株元に一株当たり約1gの緩効性化成肥料を施用し、その後、表に示す値を基準に施肥、灌水するとよい。(表2)

表1 屋上に設置した基盤の
固化の有無による花き苗の生育
(定植時(6/25)を1としたときの
16週後(10/11)の大きさ)

品 目	草 丈		株 径	
	固化	無固化	固化	無固化
サルビア	1.7	1.6	1.2	1.4
ジニア	1.9	2.2	2.3	1.9
ゼラニウム	0.6	1.0	1.4	0.6
ニチニチソウ	4.3	4.4	2.4	2.5
バーベナ	0.9	1.8	0.9	1.2
ペゴニア	5.0	4.5	2.5	1.8
ペチュニア	3.4	2.3	1.4	1.9
マリーゴールド	2.6	3.2	2.1	2.3

表2 給液管理の例
(窒素濃度50ppmで管理した場合)

月	給液量 (L/株/月)	窒素施用量 (mg/株/月)	給液回数 (回/日)
6月	6.0	300	2～3
7月	7.8	388	3～4
8月	12.4	620	3～4
9月	7.5	375	2～3
合計	33.7	1,683	

(問合せ先：0771-22-6492)